

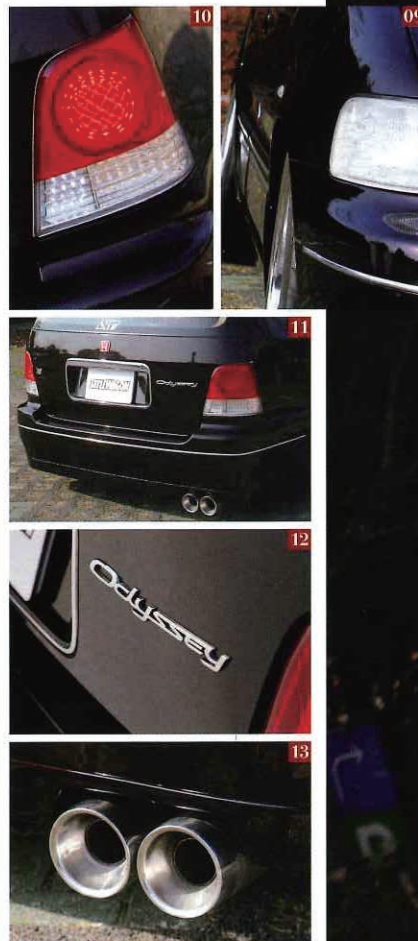


ミニバンドレスアップブームの象徴的存在として人気を博した初代オデッセイ。最近では、2代目RA6や現行RBの勢いに押され影が薄くなりつつあるが、その特徴的フォルムを好む根強いファンもまだまだ多い。今月のカーカーである、初代オデッセイのオーナー浅野さんもそんな一人だ。浅野さんとオデッセイの付き合いはすでに7年。ドレスアップユーザーに限らず、同じクルマに7年間乗り続けるのは長い方だ。「正直、クルマを乗り換える気はもうありませんね。このオデッセイを

ドレスアップした時から、とことんまでやり尽くしたいと心に決めてますから」。実際、浅野さんがドレスアップをスタートしてから繰り返したリメイクの回数は数知れず。だからこそ、このオデッセイへの愛着は何よりも深い。そして辿り着いたのがこのスタイル。コンセプトは、初代オデッセイらしさを残しながらの最新トレンドの融合。スタイリングの核となるエアロはケイブレイクのV-LUXエディション。フォグランプやサイドマーカーに他車種純正パーツを使うことで、さり気なく高級感をアップ。そして先進感を底上げしているのが、LEDによる作り込み。テールレンズのフルLED仕様や、ヘッドライト内のウインカー&モールランプのLED化。ただしヘッドライトは、あくまでも純正レンズのままフィニッシュすることで、初代オデッセイらしさを残している。さらに浅野オデッセイを語るうえで見逃せないポイントが、前後足元に施されたブレーキチューン。ピンクのカラーリングがひと際目を惹くブレーキキットは、前後ともにセッション。当然ブレーキの制動力アップという実用的メリットもあるが、それ以上に前後で装着しているというステイタス性が何よりも注目を集めるポイントだ。また、黒ベースに赤と青のパールをブレンドしたオリジナルのボディカラーも、クルマ全体のグレード感を底上げするうえで貢献している。

「初代オデッセイというと、古いクルマ的なイメージがどうしても強い。でもだからこそ、ドレスアップすればこそで、見違えるということが表現しやすい」。今後このオデッセイを手放す気はまったくないという浅野さん。すでにホイールの履き替えを計画するなど、次のリメイクも視野にいられている。浅野オデッセイの進化は、この先もまだまだ続きそうな勢いだ。

HONDA RA1 ODYSSEY



09.一見純正？ そう思えるほどナチュラルに成型されたブリスターフェンダー。確実にハンドルがきれるように、フェンダーとホイールのクリアランスを確保している。10.ユーロテールをベースにフルLED加工されたテールレンズ。LEDの粒が大きな8mm球を使い、光の存在感を高めている。11.リアバンプはフロントと同じケイブレイク。全体のバランス感を整えている。12.エンブレムはホンダベネーのクラシカルタイプに変更。13.小振りなバンプに合わせて選んだデュアルマフラー。マッチング具合も抜群。



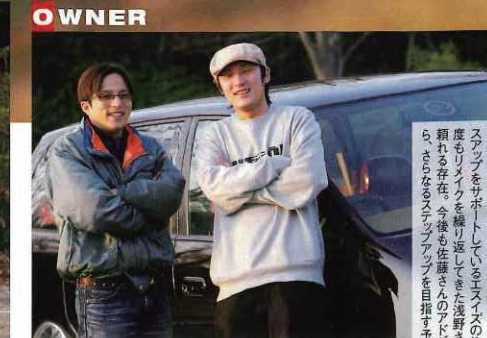
01.さり気なくブリスター化されたフェンダーに収まる19インチのワイエララジエーター。そのスポーク間から見えるのがセッションのブレーキキット。フロントにはSPOTの弁慶を装着。02.フロントのSPOTに対し、リアには4POTの牛若丸をセッティング。ピンクのキャリバーカラーが、存在感をより際立っている。

多彩なアプローチと
レーキチューンで大胆に武装

先進感あふれる
前後ブ

今月の表紙車
COVERcar

PHOTO:T.HASEGAWA



OWNER
平成9年式
RA1オデッセイ
浅野達彦さん (岡山県倉敷市)

浅野さん右がオデッセイを購入した7年前から、ドレスアップをサポートしているモーターマガジンの浅野さん(左)。何度もリメイクを繰り返してきた浅野さんにとって、最も親愛なる存在。今後は浅野さんのアドバイス聞きながら、さらなるドレスアップを目指します。



EXTERIOR

03.中央のHマークをレス加工した純正グリル。すっきりとしたフェイスに仕上げている。04.ウインカー&モールライトをワンオフでLED化。ヘッドライトのレンズ本体はあえて純正のまま、RA1らしさを残している。05.ドアミラーにはベントウGLSの純正ウインカーレンズを埋め込み加工。グレード感を底上げする。06.フォグランプはウイングダム純正を流用。奥行き感を付けながらセットアップした。07.サイドマーカーはレクサス純正を流用。さらにLED加工でフィニッシュされる。08.ケイブレイクをベースに、フォグランプまわりを加工成型したフロントバンプ。小振りなフォルムが上品なスタイルリングを作り出す。

HONDA RA1 ODYSSEY



PRODUCE SHOP

エスイズ

西日本を代表する実力派ショップ「エスイズ」。数多くのハイレベルマンをプロデュースしてきた鋭とセンスは、全国でもトップクラス。岡山県内はもちろん、県外からも多くのユーザーが足を運ぶなど、ユーザーからの信頼度も非常に高いプロショップだ。

◎ 岡山県岡山市藤田1420-11
☎ 086-296-0099
◎ 11:00~20:00(日・祝10:00~19:00)
◎ 水曜日
http://www.s-z.net

高級ブランドバッグをモチーフに 豪華セレブ空間を完全具現化



01.ペイント&イーゾーグラフィックでフル施工されたインパネまわり。02.ステアリングはイタルボランテとセッションがコラボした、ダブルネームモデルを選択。03.インパネ中央には、キャデラックエスカーレード純正のフルグリッドをインストール。高級ブランドならではのステイタス感があふれる一品。04.助手席前のトレイスペースを利用して、NIRO6.1chシステムのメインユニットを埋め込み加工。フリースペースを活かしたセッティングを披露。05.MOMOのシフトノブはレザー×パッチングデザイン。スタイリッシュなムードを演出する。

INTERIOR

「高級ブランドバッグや財布などに使われている、光沢あるレザーの質感。それをインテリア全体の雰囲気として強く出してみたい。そんなコンセプトで作られたインテリアは、高級ブランドのような贅沢感あふれるムードで包み込まれる。インテリアの核となるカラーリングは、明るめのボルドーとイエローのツートンカラー。塗装と張り替えを駆使して各部を作り込むが、最大のポイントは張り替えに使ったレザーの種類。ブランドバッグのような質感を表現するため、選んだレザーはツヤが高く、手触りも滑らかなタイプ。

その結果、ビビッドなカラーリングとのバランスも高まり、セレブ感あふれる雰囲気演出することに成功している。そしてもうひとつの話題が、液晶TVを軸にセットアップされたモニターチューン。リムジン化された3列目シート目の前へ32型TVを大胆にレイアウトし、さらに天井へフリップダウンモニターを3枚セッティング。モニター総数は少ないが、大胆な使い方でインパクトを高めている。またオーディオは、NIRO6.1chホームシアターシステムで構築。大画面による映像と心地良いサウンドが、リムジン仕様の快適さとベストマッチする仕上がりだ。



15.3列目シートの目の前にセットされるモニターは32型の液晶TV。ダイナミックな映像が楽しめる。16.フリップダウンモニターは、アルパインの10インチモデルを3台設置。32型液晶TVとともに、室内の話題性を高めている。

06.光沢のあるレザーを使うことで、高級ブランドのイメージを演出したシートの張り替え。2列目シートをはずしたフロアには、ワンオフのリムジンマットがセットされる。07.スベアタイヤカバーも、室内色に合わせてワンオフ製作。細部までトータルコーディネートがはかれる。08.カーゴスペースにはNIROのリアシステムをセット。左右、センタースピーカーがユニット内に収められている。